

## シンポジウム「今出川通の交通まちづくりとLRT」の結果概要と今後の取組について

LRTに関する検討を深めるため、モデル路線である「今出川線」沿線で平成18年6月3日に実施したシンポジウムの結果概要と今後の取組について、下記のとおりお知らせします。

なお、この結果概要については、「LRT(新型路面電車)ニュース」として6月26日から配布します。

### 記

#### 1 シンポジウム「今出川通の交通まちづくりとLRT」の結果概要

(1) 来場者 約350名

(2) パネルディスカッションにおける主な意見

ア 今出川通にこのまま自動車が増え続けるのは心配であり、将来の上京のまちづくりの手段の1つとして、LRTを考えることは有効なことかもしれない。

イ 環境や観光などの観点から見て、LRTは「まちの活性化」など地域にメリットをもたらすことも事実であり、単に反対するのではなく、関心を持って考えていくべきである。

ウ 人と環境にやさしい、魅力あふれるLRTを今出川通に走らせたいと強く願っている。

エ 同じ上京区民でも、今出川線の沿線とそれ以外とでは、意識に差があるように思う。

オ メリットだけでなく、デメリットも明らかにしながら、学区単位等できめ細かい議論を積み重ねるべきである。

カ 今出川線がもし実現するなら、公共交通ネットワーク強化や観光の面で大変意義がある。実現に向けてはクリアすべき課題も多いが、鉄道事業者の持っているノウハウを活用しながら協力したい。

(3) 来場者アンケート結果(概要)

別紙1のとおり

(自由記述の意見については別途とりまとめます。)

#### 2 LRT(新型路面電車)ニュースの発行(別紙2)

(1) 配布開始 平成18年6月26日(月)

(2) 配布場所 市役所本庁舎案内所、各区役所・支所等

\*なお、北・上京・左京区の住民に対し、市政協力委員を通じて、全戸回覧を行う。

#### 3 今後の取組

パネルディスカッションや来場者アンケートにおける「十分な議論が必要」との意見を踏まえ、意見交換会の開催や交通社会実験に向けた「協議会」の設置を行う。

( 1 ) 意見交換会の開催

モデル路線沿線の住民をはじめとする市民や事業者と、導入に伴う効果や課題を示しながら、地域における意見交換会を開催する。

( 2 ) 協議会の設置

今出川線沿線での議論を深めるため、学識経験者、地元住民、交通事業者などからなる「協議会」を設置し、L R T 導入時に近い状態を創出することで、課題の把握・検証等を行うための交通社会実験を、今年度、今出川線沿線において実施することを検討する。

< 参考 >

シンポジウム「今出川通の交通まちづくりとL R T」

( 1 ) 日 時 平成18年6月3日(土)午後2時から午後4時まで

( 2 ) 場 所 西陣織会館6階 第3展示場

( 3 ) 次 第

ア 京都市からの報告「新しい公共交通システム検討結果について」

イ 基調講演「交通まちづくりとL R T ~ 先進事例に学ぶまちづくり」

青木 真美(同志社大学商学部教授)

ウ パネルディスカッション

コーディネーター 青木 真美

パネリスト 山本 安一(上京区市政協力委員連絡協議会会長)

北村 廣子(上京区地域女性連合会会長)

遠山 正一(今出川通に路面電車を走らせる実行委員会)

小松原哲夫(京福電気鉄道株式会社常務取締役鉄道部長)

石崎 了(都市計画局交通政策室長)

## 来場者アンケート集計結果

回答者 153 名

### 1 シンポジウムについて

問1 本日のシンポジウムの内容は、充実していましたか。

- ・「充実していた」という回答が、約半数を占めた。

問2 今後もこのような市民シンポジウムの開催を希望しますか。

- ・「希望する」が約9割を占めた。

### 2 今出川通における新型路面電車(LRT)の検討について

問3 交通問題を解決する施策の1つとして検討中のLRT等の導入についてどのように思われますか。当てはまるものを1つ挙げてください。

- ・「賛成、すぐにでも導入すべき」が約2割、「賛成だが十分な議論が必要」が約4割、合わせて約6割がLRTの導入に賛成であった。
- ・一方、「賛成だが、十分な議論が必要」が約4割、「賛否にかかわらず、十分な議論が必要」が約2割、合わせて約6割が「十分な議論が必要」と答えた。

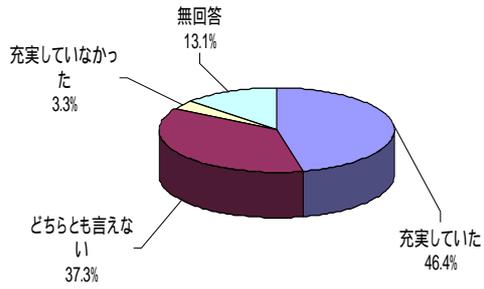
問4 今出川通において今後LRTを検討する場合、どのようなことに配慮すべきだと思いますか。特に当てはまるものを3つ挙げてください。

- ・最も多いのが「軌道の専用化による道路の混雑と駐車スペースの確保」であり、続いて「公共交通全体の利便性向上」となっている。

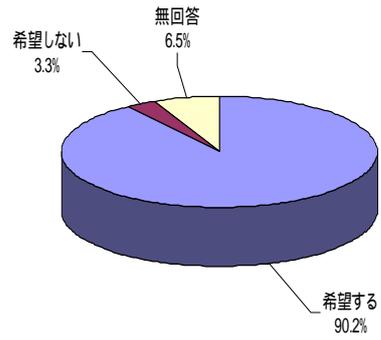
問5 今回のシンポジウムに参加されて、LRTに対する意識は変わりましたか。

- ・全体の約6割が、「良い印象をもった」又は「少し良い印象をもった」と回答している一方、「悪い印象をもった」「少し悪い印象をもった」は少数にとどまっている。

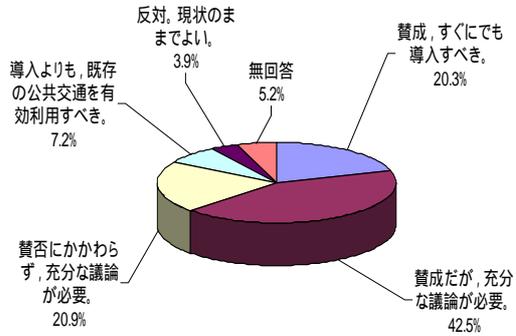
問1 シンポジウムの内容について



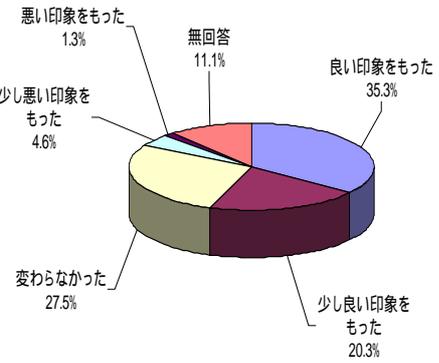
問2 今後のシンポジウムの開催意向



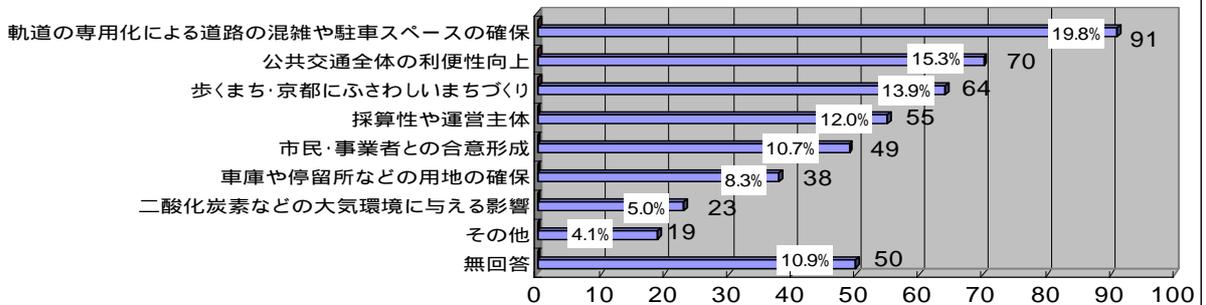
問3 今出川通におけるLRT導入に対する意向



問5 LRTに対する意識の変化



問4 今出川通においてLRTを検討する場合に配慮すべきこと(3つ)



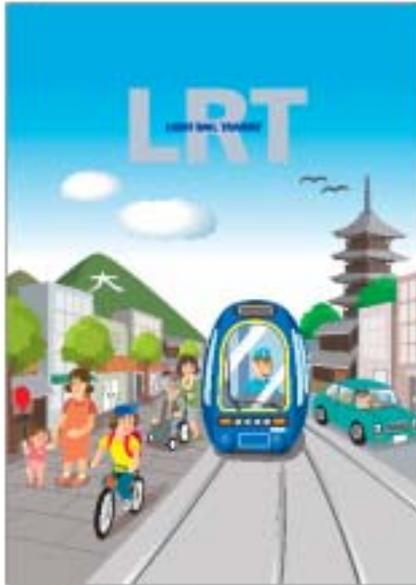
# LRT (新型路面電車) ニュース

No.1

発行：京都市都市計画局交通政策室  
〒604-8371  
京都市中京区寺町海部通上ル上木町寺町町488番地  
TEL:075-222-3483 FAX:075-222-3472  
京都市印刷局 第184155号



## シンポジウム「今出川通の交通まちづくりとLRT」を開催！！



### LRTとは？

従来の市電とは異なり、バリアフリーに優れ、環境にやさしく、専用化された軌道を持ち、時間に正確などの特徴がある全く新しい路面電車

去る6月3日(土)、西陣織会館において、シンポジウム「今出川通の交通まちづくりとLRT」を開催しました。

当日は350名を超える方にご来場いただき、LRT(新型路面電車)に関する効果や課題などについて、活発な議論が繰り広げられました。

今後、京都市では、さらに市民の皆様とともに、LRTについての議論や検討を重ねるため、意見交換会の開催や交通社会実験の実施に向けた検討を行ってまいります。

### 京都市からの報告～新しい公共交通システム検討結果

～『歩くまち・京都』の実現に向け、  
市民の皆様と一緒に考えましょう～

- まず、京都市から、これまでのLRTに関する検討の結果、地域に活力をもたらすなど可能性がある一方、自動車交通に与える影響など多くの課題があることや、検討を深めるためのモデル路線として「今出川線」を選定したことを報告したうえで、今後もLRTの良い面と課題を示しながら、市民の皆様と一緒に考えていく方針であることを説明しました。



### 基調講演～「交通まちづくりとLRT—先進事例に学ぶまちづくり」



～環境を考え、道路・交通の主役を自動車から公共交通へ、  
住んで楽しいまちの実現を～



- 次に、同志社大学商学部の青木真美教授から、「交通まちづくりとLRT～先進事例に学ぶまちづくり」をテーマに、これからは環境を主体に考え、自動車や道路の使い方を考え直す必要があること、LRTなど公共交通を活用することで、住んで楽しいまちづくりが実現可能であることなどを、国内外の事例紹介も交えながらご講演頂きました。

## パネルディスカッション



- 続いて行われたパネルディスカッションでは、市民や、鉄道事業者の方々に京都市を加えた5名のパネリストが、今出川通の将来の交通のあり方や、LRT導入に向けての期待や課題などについて、活弁な議論を交わしました。当日の主なご意見は以下の通りです。

- ◇ 今出川通にこのまま自動車が増え続けるのは心配。将来の上京のまちづくりの1つの手段としてLRTを考えることは有効なこともかもしれない。その際、メリットだけでなくデメリットも明らかにしながら、きめ細かく意見交換を行う必要がある。
- ◇ 環境や観光の観点からみて、LRTは「まちの活性化」など地域にメリットをもたらすことも事実であり、単に反対するのではなく、高齢者や環境にやさしいLRTの良いところも理解し、将来健康で幸せな生活を送れるための1つの手段としてLRTを考える必要もある。
- ◇ LRTが今出川に導入されることによって自動車の交通量は減り、沿道の生活環境の改善が期待できる。道路幅員の問題等、課題もあるが、狭い通りに路面電車を走らせている事例もあり、知恵を出せば実現は可能ではないか。
- ◇ 今出川線がもし実現するのなら、公共交通ネットワーク強化や観光の面で、大変意義がある。実現にはクリアすべき課題も多いが、鉄道事業者の持っているノウハウを活用しながら協力していきたい。
- ◇ 交通政策の基本理念である「歩くまち・京都」の実現のための1施策として、LRT導入を検討している。今後、沿線住民の皆様をはじめ多くの方々の幅広い意見を伺っていくとともに、LRT導入に当たっての効果や課題を客観的に判断するため、交通社会実験の実施を検討したい。



## 会場とのディスカッション

(皆様からいただいたご意見は、後日ホームページにまとめてお答えする予定です)

- 最後に、会場から寄せられた数多くの質問の一部が紹介され、パネリストがその質問に答えました。



Q. 自動車の一方通行などの規制も必要では。

A. 大きな道路を一方通行化することや、通過交通を細街路に入れないなど、自動車の抑制を促す施策がもっと必要であると考えます。

Q. まちづくりとLRTはどう結びつくと考えますか。

A. LRTを通せば上京区が発展するという単純な話ではない。地元の住民から地域を盛り上げていくことが大切で、そのためには行政による後押しがほしい。

Q. 公共交通を便利にすれば、自動車は減少すると思うか。

A. 公共交通が魅力を発揮するためには、車に乗る人を減らす、路上駐車を減らすなど抜本的な改善を図ることが必要。一人一人の意識を変えていかなければならない。

Q. 京福電鉄は今出川線に乗り入れることも考えているのか。

A. 希望は持っているが、財源や、設備などのハードの問題を含め課題が多い。運営については、例えば乗継割引など利用しやすいものにする必要がある。

Q. 今後、京都市としてはどう動いていくつもりなのか。

A. 例えば学区など小さな単位での意見交換会を開催したい。荷動きの問題など具体的な事例を基に、幅広い議論をしていきたい。また、交通社会実験の実施も検討したい。

京都市交通政策室のホームページで、LRTに関するご意見を募集しています。

ホームページアドレス <http://www.city.kyoto.jp/tokei/trafficpolicy/lrt/>